



完成したダカイ小学校（レイテ）

台風被災地で 125 教室が完成！

＜自然災害の影響を受けた子どもたちの事業：担当職員からのレポート＞

2013 年 11 月 8 日。大型台風ハイエンがフィリピン中部に壊滅的な被害をもたらしたその日から、早いもので 2 年が経とうとしています。この台風で、レイテ島東部のドラグ町の家や学校の 9 割以上に被害が生じ、子どもたちは、ビニールシートで覆われた屋外の仮設校舎で、雨の日は雨漏りのために傘をさして授業を受けていました。

アイキャンは、ドラグ町の 15 校 125 教室の修復・再建に取り掛かり、この度、最後の 2 校であるダカイ小学校とサンラファエル小学校の計 16 教室が完成しました。2015 年 9 月 2 日には、両校の現地教育省への引き渡し式典が開催され、レイテ州知事、ドラグ町長、教育省ら関係者、そして約 350 名の児童・住民が参加し、チャリティコンサートの収益を寄付してくださったライジングプロダクション所属のアーティスト wind-s も、日本から駆け付けました。ダカイ小学校の校長は、「日本の人々の支え、建設に関わった地域住民など、皆の思いや力が合わさって、この学校が完成しました」と挨拶しました。式典の最後には、フィリピンの歌である「ブコ」（直訳すると「ココナッツ」だが、Buhay ko（ブハイコ）＝「私の人生」という意味もある）を、全員で合唱しました。歌っている間、会場の後方にいた母親たちは涙を流し、「やっとこの日を迎えることができた」と語りました。

後日、完成した学校に行くと、真剣な表情で先生の話聞き、板書をする子どもたちの姿が見られました。休み時間になると、ゴム飛びをして遊んだり、教室内で友達同士ふざけ合ったりする、屈託ない笑顔が見られ、笑い声が響き渡りました。子どもたちに声をかけると、「これが私の教室で、これが私の椅子。毎日学校に来るのが楽しみ。」「お父さんが、僕たちの学校を作ったんだ。」と自慢げに話していました。

安全な校舎で勉強するという、子どもたちにとって当たり前の日常を取り戻すことができた一方、緊急雇用（キャッシュワーク）で建設に携わった住民からは、「自分の子どもが通学を継続できるよう、仕事を探さなければ」という声が聞かれました。生活の糧であったココナッツの木を被災で失った住民たちは、依然として過酷な経済状況に置かれており、地域住民の生計向上に力を入れていく必要があります。私たちアイキャンは、今後も住民とともに、更なる復興に向けて一步一步進んでいきます。



ICAN レイテ事務所
福田浩之（ふくだひろゆき）
～プロフィール～
同志社大学卒業後、フィリピン大学修士課程、ICAN マニラ事務所インターンを経て、2013 年 4 月に入職。

Project Site



●はアイキャン活動地
※番号は裏面に対応

認定 NPO 法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須 3-5-4 矢場町パークビル 9 階 TEL/FAX : 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp

ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

【編集者から一言】 継続的に活動を応援して下さるマンスリーパートナーを募集しています。詳細はホームページをご覧ください。お問い合わせください。

①ごみ処分場周辺の子どもたち(ケソン)

9月22日

正式に4名が仲間入り!



1ヶ月間の技術訓練を終えた4名の住民が、正式にSPNP(フェアトレード生産者団体)に加わりました。新メンバー加入後最初の定例会では、ワークショップを通して、SPNPがパヤタス訪問者や商品購入者に与える影響を再確認したほか、メンバーの将来の夢や展望を共有しました。新加入のジャーニーさん(31歳)は、「早く沢山の製品を作れるようになり、家族の助けになりたい」と語りました。

②紛争地の子どもたち(ピキット)

9月15日

新たに学校2校の建設を開始



ピキット町西部の2校の建設を開始し、基礎を築くための掘削作業や支柱の鉄筋の設置が終わりました。雨が降ると雨漏りや浸水が起きている、ダトゥ・ビトル・マンガンサカン記念高校の校長のローランドさん(46歳)は、「雨で勉強ができないと子どもたちが嘆く度に、もう少しで新しい校舎ができ、大雨でも勉強できるようになると励ましている」と言い、完成を心待ちにしています。

今月のICANを増やす活動

スタディツアー・研修事業

9月1～7日

路上の子どもと1週間過ごしたボランティア

路上の子どもたちに、教育、給食提供、商品開発等のボランティア活動を行うツアーを初開催しました。保護施設で路上の子どもたちと寝食を共にした参加者11名からは、「何かをしてあげようと思って来たが、与えられる方が多かった」「真の意味で人の役に立てるよう、力をつけなければ」「路上の子どもは強く優しい。この子たちを幸せにできるよう私も頑張りたい」等の声が聞かれました。



語学教室事業(スマイルチケット)

9月3日

1ヶ月ぶりに全員揃った授業

木曜日の英語中級クラスに、1ヶ月間休会をしていたAさんが復会し、1ヶ月ぶりに全員が揃いました。この日のトピックは「一般的な疾患」で、風邪や頭痛などの症状の伝え方やそれに対するアドバイス等の会話を学びました。授業後、Aさんは、「久しぶりで、すぐに英語が出てこない時もあったけど、改めて授業がとても楽しいと感じました」と笑顔で話していました。



今月のTopics

名古屋市が「フェアトレードタウン」に!

9月19日

名古屋市が国内2番目のフェアトレードタウンに認定され、祝賀会に約250名の関係者が集まりました。認定を目指してきたFTNN*設立団体の一つであるアイキャンも参加し、今後フェアトレードをより地域社会に浸透させていく決意を共有しました。

*FTNN:フェアトレード名古屋ネットワークの略

今月のMedia

9月2日 まにら新聞 w-inds.がレイテと路上事業地訪問	9月10日 読売新聞 レイテ島で新たに2校、計15校が完成
9月3日 スポーツニッポン w-inds.がレイテに学校建設	9月13日 MILF Official Website MILF対象の平和研修
9月6日 朝日新聞 レイテ島に学校2校が完成	9月20日 まにら新聞 裏千家マニラ協会が茶会参加費を寄付
9月7・14日 まにら新聞 裏千家チャリティ茶会の案内	9月28日 NHK・FNN 聖明福祉協会式典でイタン石田が登壇

今月のICAN なる

◎一柳さん、3年経っても変わらず応援してくださり、ありがとうございます!

マンスリーパートナー 一柳萌さん

「微力でも日本から力になりたい」

インタビュー:10月4日

私は、大学卒業前に色々な経験をしたかったと思っていて、フェアトレードに関する活動をしている母の紹介で、アイキャンを知りました。それまでも、母の影響でフェアトレードに興味はありましたが、現地の人や国の現状などは全くと言っていいほど知らなかったの、自分の目で確かめたいという思いから、2012年冬のスタディツアーに参加しました。

ツアーでは、初めての海外にすごくワクワクしましたが、いざ色々な場所へ行って説明を受け、目で見て、大きな衝撃を受けました。子どもたちは決して安全な場所に住んでおらず、毎日の食事を満腹になるまで食べることもできず、車の多い道路でお金を求めていて、息がつまる思いでした。一方、子どもたちとの遠足は本当に楽しくて、私が逆に元気をもらいました。厳しい環境の中でも元気で無邪気な子どもたちに、私は何が出来るのだろうと考える日々を過ごし、この現状を知ることの大切さを身に染みて感じました。

子どもたちやスタッフ、参加者の皆さんと過ごし、何かに取り組みたい、微力でも日本から子どもたちの力になりたいという気持ちから、帰国後、日本事務局のスマイルチケット(チャリティ語学教室)に通い始めました。就職後、仕事の都合で通えなくなりましたが、それを機にマンスリーパートナーになりました。これからも、自分なりに、周りの人にアイキャンやフィリピンの子どもの現状等を伝えていき、またマンスリーパートナーとして関わっていけたらと思っています。

